

プレスリリース
2011年7月22日
全日本大学対抗ミートジャッジング競技会実行委員会

報道関係者 各位

2011 オーストラリア大学対抗ミートジャッジング競技会で日本代表チームが枝肉順位判定部門で準優勝

2011 オーストラリア大学対抗ミートジャッジング競技会が7月5日から9日までの5日間にわたり、オーストラリア・ニューイングランド州アーミデール市にあるニューイングランド大学で行われた。参加者は12チーム93名であり、オーストラリアの8大学、米国の1大学（アメリカ・テキサス Tech 大学：米国代表）と日本代表チームが参加した。

日本代表チームは、今年3月に開催された全日本大学対抗ミートジャッジング競技会（主催：日本 ICMJ 実行委員会、会長：金井幸雄・筑波大学名誉教授）で優秀な成績を修めた（総合成績1位から5位）の学生5名（神戸大学・辻絵美さん、日本獣医生命科学大学・清水萌子さん、麻布大学・谷 宏さん、北海道大学・藤好浩輔、酪農学園大学・清水宏嗣さん）、コーチのケート・ニースさん（Meat & Livestock Australia Limited. Japan、筑波大学大学院博士課程修了）と前田さくらさん（帯広畜産大学大学院修士2年）で構成。日本獣医生命科学大学の撫年浩・講師と酪農学園大学の扇勉・教授が引率者として随行した。

競技会では、牛の食味品質評価、牛・豚・ラムのプライマルカット（小割部分肉）とリテールカット（小売りカット肉）の判別、牛・豚・ラム枝肉の順位判定と判定理由の記述などの部門ごとに、個人とチームで成績を競い合った。その結果、日本代表チームは枝肉順位判定で2位、総合（全部門の合計点）で5位と活躍した。また、競技会2日目の牛枝肉を用いた競技終了後の成績優秀15位までの選手に麻布大学の谷さんが選出され、再度ショートロインの順位判定を行い順位判定の理由を全参加者の前で英語で発表した。谷さんの見事な発表に対して、会場からはひと際大きな拍手と歓声が起こった。

（引率した日本獣医生命科学大学の撫年浩・講師のコメント）

参加したメンバーは、この競技会への参加を通して、日本では経験できない貴重な体験的学習の機会を与えられ、学生交流や国際交流を通じて大いに視野を広げることができたと思う。この経験を生かし、将来、食肉関連分野をはじめ、様々な分野で活躍してくれることを期待している。

日本代表チームの派遣をご支援いただいた MLA をはじめ、日本大会の開催にあたり協

賛・支援をいただいた畜産団体・企業に感謝します。

本リリースのお問い合わせは：

全日本大学対抗ミートジャッジング競技会実行委員会（日本 ICMJ）

広報担当委員： 小澤壮行

日本獣医生命科学大学・応用生命科学部 動物科学科

〒186-8602 武蔵野市境南町1-7-1

Tel 0422-31-1122

e-mail ozawa@nvl.u.ac.jp



牛の枝肉順位判定、プライマルカット（小割部分肉）とリテールカット（小売りカット肉）の判別競技に向かう日本代表チーム

（左から酪農学園・清水さん、麻布大学・谷さん、北海道大学・藤好さん、日本獣医生命科学大学・清水さん、神戸大学・辻さん）



真剣な表情で牛プライマルカットの評価を行う日本代表チーム



枝肉順位評価部門準優勝、総合順位 5 位と大健闘の日本代表チーム選手団

(前列左から麻布大学・谷さん、日本獣医生命科学大学・清水さん、神戸大学・辻さん、
後列左から日本獣医生命科学大学・撫准教授、帯広畜産大学・口田教授、酪農学園大学扇
教授、酪農学園大学清水さん、北海道大学・藤好さん、帯広畜産大学大学院・前田さくら
さん、Meat & Livestock Australia Limited, Japan・ケート・ニースさん)